

答

処理方式に合わないごみの処理には専用施設が必要となるため、焼却炉方式は、基本構想の中で検討したい。施設の更新には8年から10年を要するため、廃棄物の状況は、その間の人口減少、ごみの削減、資源化への取組などが影響する。本市は、平成32年度に平成27年度比約7・8パーセントのごみを削減する目標があるほか、平成43年度までのごみ削減量を推計していることから、これらを基に基本構想を策定したい。

問

消防団では、消火活動をはじめ行方不明者の捜索、更には技術力向上を図る操法大会への参加など、年間を通し、地域を守る活動が行われているが、どのような経緯で消防団員の活動服を更新するに至ったのか。また、今後、活動服の更新整備計画を策定する必要があるのではないか。

答

平成26年に消防団の装備の基準と消防団員服の基準が改正されたことにより、現在、全国はもとより県内においても活動服の更新が進められている。本市の活動服は、平成17年度の配備から12年が経過しており、経年劣化も著しいことから、今回、改正された消防団員服制基準に基づく活動服を全消防団員に更新配備することにした。活動服は、災害活動時において重要なものと考えており、今後は、被服の損傷程度や経年劣化などを見据え、消防団員の身体保護を念頭に柔軟な対応が図られるよう、更新整備計画の策定について検討していきたい。

三好 和彦 議員



(議案質疑)

- 1 結婚支援事業について
- 2 消防団装備整備事業について

消防団員活動服 更新整備計画の策定を！

西条自民クラブ

楠 學 議員



(代表質問)

- 1 本市の将来像に関する市長の考え方について
- 2 財政運営について
- 3 国際交流について
- 4 名誉市民の顕彰について

市長が描く

本市の将来像は？

問

我が国は極端な超少子高齢社会を迎えるとともに、地方都市を中心に、かつて経験したことのない急激な人口減少の流れが押し寄せられている。国土交通省の人口予測によると、1平方キロメートルごとに分けた全国の18万地点で見ると、2050年には約6

割で人口が半分以下になり、約2割に当たる3万6千地点では、もはや住む人さえいなくなるという厳しい調査結果も公表されている。

2040年には本市の人口が9万8千384人と10万人を割り込む数値が推計されており、人口減少の流れが進むとともに市民生活は大きく変容してくるものと思われるが、市長の現在の任期である2020年に向け、市長自身は本市のあるべき姿をどのように捉えているのか。また、急激な人口減少が予想される2040年の将来都市像をどのように描いているのか。

答

市長就任以来、5つの基本政策と具体的施策の実践を通じ、市民の満足度を向上させたい、全世代の人に西条を選んでもらいたいという思いから「ワクワク度日本一」のまち西条の実現を目指して」という言葉を発信してきた。今任期中は、この思いを絶やすことなく走り続け、3年後に多くのかたから西条を選択していただくことができるよう、特に子育て世代や若者に重きを置いた施策を推進するとともに、生産年齢人口の確保を図り、地域における人と仕事の好循環を創出したい。

2040年に向けた将来都市像についても、自治体のトップとして将来を見据えていかなければならないと考えており、20年後、30年後における本市の現実的な姿をしっかりと直視することが重要だと感じている。

まずは1期目の任期を全力で駆け抜けることに重点を置き、一つでも多く市民との約束を果たすことができたと言えるよう基本政策の実践に努めていきたい。



ワクワク度日本一のまち西条を目指して